

Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/5/15(月)

創世記44:1-17

1-13vを読もう。「衣を引き裂く(13v)」という表現が聖書で出てくる時、多くの場合悔い改めを意味する。自分の罪に対する嘆きや悲しみ、そして後悔といった感情を、人々は衣を引き裂くことを通して表現したんだよ。つまり、ここに来てやっと、兄弟達は、ヨセフへの嫉妬、憎しみから彼をエジプトに売り飛ばしたことで、父を騙してヨセフが殺されたことにしたこと等、全ての罪を認識した。だからユダは、「神がしもべどもの咎を暴かれた(16)」と話しているね。

私達も御霊によって、罪が示される時がある。でも、今日知って欲しいことは、それは“来てほしくない嫌な時”ではなく、“悔い改めに導かれる=それほど、神様がみんなを愛していることの証拠”なんだよ！

★しかし、罪の増し加わるところに、恵みも満ち溢れました。(ローマ5:20)

2023/5/16(火)

創世記44:18-34

以前は父の偏愛に対して複雑な嫌な思いを持っていた兄ユダだったが、ヨセフに家族の事情を説明している姿にはもうそのようなことはなく、偏愛している父とその愛を受けているベニヤミンを受け入れ本当に心配し、自分が奴隷となって身代わりとして働く申し出るくらいになっていた。それは家族に対する真実な愛だった。

ユダが家族に与えた身代わりの真実の愛を、イエス様はユダ以上に十字架によって私達に与えてくれているよ。

●イエス様に愛された者として今日身近な人に愛を現そう！！

2023/5/17(水)

創世記45章

クリスチャンであっても、神の自分に対する導きが全て分かるとは限らない。しかし、信仰によって歩むとき、神の不思議な導きを知らされることもある。

ヨセフは声を上げて泣き、兄弟たちに自分自身を明かした。そして、兄弟たちに対して自分を責めないでほしいこと、今回の出来事の中に神の導きがあったことを語った。さらに、神は自分をエジプトの統治者としたことを証し、父たちをエジプトに連れてくるように言った。

私達も神の計画が分からず、暗闇の中を歩んでいるように感じることもあるかもしれないが、ヨセフを導かれた神が同じくわたしたちにも働いてくださっていることを覚えよう！

2023/5/18(木)

創世記46:1-27

ヨセフのいるエジプトに行く決断をしたヤコブだが、神様の約束の地から離れることが本当に神様のみこころなのか迷っていた。そこで神様は幻の中にあらわれて語った。(3.4v)

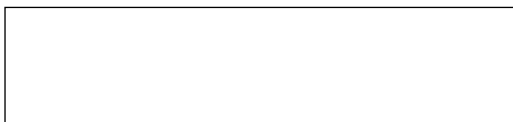
離れることだけを見ると、約束の地を捨ててしまうように思えるが、神様はイスラエルの民が増えて再び約束の地に戻ってくると言われているのである。

私たちは神様を知り、神様と共に生きるクリスチャンである。何をすることも神様の声を聞こう。この世のもの、目先のものにとらわれず、神様のこころを選ぼう！難しいからこそ選び続けられるよう祈ろう！！

2023/5/19(金)

創世記46:28-34

●34vを読もう。ヨセフは感動の再会を果たした後、不慣れなエジプトに来た父ヤコブにどんな配慮をしているかな？



●4月から1ヶ月半が過ぎたね！みんなの周りには新しい環境に戸惑っている人はいないかな？教会や学校、近所でもいるかもしれないよ。その人に自分ができることがないか考えてみてはどうかかな？



2023/5/20(土)

創世記47章

ヨセフは兄弟をファラオに会わせて後、お父さんのヤコブもファラオの前に立たせたね。

ヤコブはここでファラオのことを祝福している。神様の民イスラエルの族長としてファラオとエジプトのために祈るヤコブ。その後ファラオはヤコブに生きた年月を尋ねているね。ヤコブの人生は罪もあれば、苦難もあった。だけど神様はヤコブのことを愛と真実をもって導いてくれたね。その神様の素晴らしさは話を聞いたファラオにも伝えられることになった。

私たちが神様の祝福を受け取って、歩み証する時、周りの友だちや家族にもその祝福は流れて行くよ！その祝福を流す者として出ていけるよう祈ろう！

2023/5/21(日)

創世記48章

ヨセフは父のヤコブが病氣と聞いて、息子のマナセとエフライムを連れてヤコブの元に向かった。ヤコブ(イスラエル)は最後の力を振り絞って床に座り、ヨセフとその子どもたちには3-7節に渡って神様の約束と自らの経験を引き継がせた。さらにイスラエルは老齢のために目がかすんで見えなかったが、ヨセフの息子たちに口づけをし抱き寄せた。続いてイスラエルは二人の子どもに手を交互にして置き、ヨセフと子どもたちを祝福する。それは祈りであり、証しでもある。この祝福で注目することばは、「今日のこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神」である(15)。どんな時も神様はずっと私の羊飼いであったとイスラエルは告白し、この神様がヨセフの二人の息子と一緒にいてくださるよう祝福したのである。私達も今日までの神様の導きに心から感謝しよう。